

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 41 号	氏名	齊藤 誠
学 位 審 査 委 員	主 査	松山 俊文	
	副 査	森 望	
	副 査	塚元 和弘	
論文審査の結果の要旨 1．研究目的の評価 癌の治療においてその作用特異性から分子標的治療薬への期待が高まっている。IL-13 イムノトキシンは、一部の腫瘍細胞で特異的に高発現している IL-13 受容体 $\alpha 2$ (IL-13R $\alpha 2$) 分子を標的とした薬剤である。本研究では IL-13R $\alpha 2$ 発現のない腫瘍へ IL-13R $\alpha 2$ 遺伝子を導入することにより、IL-13 イムノトキシン感受性を賦与しようとしたものであり、目的は十分に妥当である。 2．研究手法に関する評価 最初に 13 種のヒトがん細胞株について IL-13R $\alpha 2$ の発現を検討し、その発現がなかった 2 種のがん細胞に IL-13R $\alpha 2$ 遺伝子を導入し IL-13 イムノトキシンへ対する感受性の変化について <i>in vitro</i>、<i>in vivo</i> の両面から評価した。IL-13R $\alpha 2$ の発現について用いた RT-PCR やフローサイトメトリー、IL-13R $\alpha 2$ の遺伝子導入に用いたアデノウイルスベクター系、<i>in vivo</i> での評価に用いた腫瘍移植モデル系、何れも遺伝子治療開発実験の際に用いられる標準的な手法である。 3．解析・考察の評価 IL-13R $\alpha 2$ 遺伝子導入の結果、IL-13 イムノトキシンへの感受性が賦与されることが <i>in vitro</i>、<i>in vivo</i> 何れの実験からも証明された。IL-13 イムノトキシンが多くの癌に適用できる可能性を示唆するものであり、今後の発展が期待できる。審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。			